



健診会場で配布しているパンフレット。0～3歳向けのお薦め絵本や選び方などが分かりやすく解説されています



▶絵本の読み聞かせに赤ちゃんは興味津々の様子



る人たちがばかりです。また、会員は市の子育てボランティア講習会を受講しているのので、絵本以外に育児の相談にも乗ることが出来ます。

会場を訪れたお母さんたちからは、「絵本に集中できないのですが」とか「三歳になつたらどんな絵本がいいのですか」といった質問も出され、ボランティアたちが親切に答えていました。

「すてっぶ」会長の越前せい子さん(五三)は、「大事なのは、お母さんやお父さんが赤ちゃんを抱っこして、語り掛けてあげることです。絵本はそのための素晴らしい道具です」と話します。

赤ちゃんやお母さんの反応も上々

絵本に対して、笑顔を見せたり、果物の絵に手を伸ばしたりといった赤ちゃんの反応に、多くのお母さんは驚きの声を上げます。「まだ絵本は早いと思っていました。まさかこんなに反応するなんて」、「あらためて絵本の読み聞かせの大切さを知りました」、「さつそく帰りに絵本を買っていきます」などお母さんたちからの反応も上々のよう。「僕も読み聞かせをしなくて



は」と照れながら話すお父さんもいました。

なお、これまで健診会場で行ったアンケート調査では、約六割のお母さんたちが「家で読んであげたいと思った」と回答しています。

できるだけ長く続けていきたい

「すてっぶ」の副会長を務め、自宅で絵本文庫を開設している土山きみ子さん(五五)は、「親と赤ちゃんとのコミュニケーションの趣旨は、近年全国的に広がりがつつあるブックスタートと同じです。数年で終わってしまうのではなく、できるだけ長く続けていきたいですね」と抱負を語ってくれました。



絵本読み聞かせの会「すてっぶ」の皆さん。いずれも絵本の読み聞かせのベテランばかりです



た。

このような健診時における絵本の読み聞かせ事業は、市内では白石区が初めての取り組みであり、市内はもとより他都市からも関心が寄せられています。

十月月児健診は毎月第一・二・三・四木曜日に同センターで実施されており、毎回「すてっぶ」の皆さんが絵本の読み聞かせを行っています。健診会場でエプロン姿の会員を見かけたら気軽に声を掛けてみてください。

ブックスタート 赤ちゃんとお母さんを通して楽しいひとときを持つことを応援する目的で、乳幼児健診に参加した赤ちゃんとお母さんに、説明の言葉を添えて、絵本や資料などを手渡す取り組み。